

テーマ「自治基本条例の前文につながる内容について」

第10回(H27.9.13) 尼崎らしいまちづくりのルールを考える市民懇話会で出た意見のまとめ

① 市民懇話会に参加してみて（意見交換をしてきて）変わったことは何か

尼崎への興味・関心が高まった

- ・尼崎市について少し興味を持つようになった
- ・これまでよりも「尼崎」に興味が出てきた
- ・尼崎のことが好きになりました
- ・LINE（Facebook）で尼崎市の友達登録をした

条例への関心が高まった

- ・たくさんの事を知り得て、10回目でも条例に対して、関心と期待を持てるようになった

市内の地区名を知った

- ・市内の地区名が分かるようになった

自分が住んでいる地区以外のことや、市内6地区の違いを知ることができた

- ・普段、接することのない多様な人と接して、今住んでいる地域以外の色々なことを知ることができ、尼崎の各6地区の違いを改めて確認できました

知らなかった地域の課題を知ることができた

- ・普段知る事のなかった地域の課題を知る事ができた
- ・知らなかったことを知ることができた

幅広い年代、立場の人と知り合うことができた

- ・知り合いが増えた
- ・色々な人と知り合いになれた。色々な意見が聞けた。これからも機会があればこういう会に参加したいと思う

自分の殻を破って行動するようになった

- ・背伸びして行動するようになった

人前でも臆さずに話せるようになった

- ・いきなりのフリで発表するのでも渋らず（上手くはないですが）できるようになりました

自分と異なる意見を持つ人ともつながりをつくれるようになった

- ・自分と異なる意見を持つ人とも仲良くなれる様になった（ウマの合う人のみのコミュニティではない）

若い世代でも関心を持っている人がいることを知った

- ・若い人の関心が高いと思った

市全体のことを考えている人がたくさんいるということを知った

- ・私が今まで会ったことのない、多分、この懇話会に出なければ会うことのなかった方々とお会いすることができ、多様な市民の方がいらっしゃるということがわかりました。こんなに市のことを考えている方がいらっしゃるということがよく分かりました
- ・市民全体のことを考えている人が多くいることを知った
- ・自分の考えや意識で変わったことは何もないが、尼崎の事を真剣に考える人がたくさんいることがわかった。また、そんな人達と Facebook で友達になれた

職員を身近に感じ、向いている方向性も共有できると感じた

- ・職員の方の見方が変わった
- ・職員や市民の方が同じベクトルであることがわかった
- ・市職員の方々が市民と身近であるとわかりました
- ・職員の方が頑張っていることがわかった
- ・協働・男女参画課のスタッフさんと知り合えたこと
- ・ますますスタッフの方が好きになりました

前向きな人たちと知り合うことで尼崎や自分の住む地域に愛着を持った

- ・懇話会参加者が住んでいる地区と思うと、これまでより身近に感じられるようになりました
- ・尼崎のことを好きになりました。尼崎のために一生懸命な人たちがいっぱいいることがわかりました
- ・尼崎に引っ越ししたいと思います

立場がまったく違う人と話し合うことで視野や交流範囲が広がった

- ・今まで自分の関わってきた人たちとは全く違う人たち（世代や職など）と話し合うことで、尼崎市内の問題や活動を知ることができました。自分の中の交流も広がりました
- ・色々な立場の人と話せて良かった
- ・立場の違う人と話すきっかけになった

コミュニティ活動をする上でのヒントを得た

- ・コミュニティの打開策、ヒントを得た

市民活動に対するモチベーションが上がった

- ・市民活動のモチベーションが上がった

若い世代の市政参画や地域活動への参加が重要であることを共有できた

- ・若い世代の参画が重要であるということの共有

人によりそれぞれ多様な価値観があることを知った

- ・住民の皆さんとの交流を通じて、いろんな価値観を持った人がいることを知った

多様な意見を聴くことの重要性を感じた

- ・多くの人の意見をじっくり聞く事の大切さを知りました

つながることの大切さを知った

- ・つながりの大切さを改めて思った

市政について意識するようになった

- ・尼崎市について意識するようになった

「公共」に対する課題意識を持つようになった

- ・第2の故郷に（安心して暮らせる）という動機で参加しましたが、公的事業に問題意識を持つことができるようになったように思います
- ・公共に対する問題意識

行政と市民、双方の目線で考えることができ、また、行動も変えていけるように感じた

- ・行政の目線に立って、市民が納得できるまちづくりについて考えることができた
- ・若い人も市民懇話会に参加するだけでも、地域や行政の見方や自分の行動も変わっていくことができると思うようになった

他者が行う活動等に積極的に関わるようになった

- ・いっちょかみする度合いが増えた

自身ができることで参加・協力したいと思うようになった

- ・尼崎市を良くしたいと思う方がたくさんいらして正直びっくりしました。私にできることがあれば、これからも参加、協力したいと思いました
- ・これからはこのような会にもう少し積極的に参加しようと思う

近隣や商店と話をし、事業を立ち上げた

- ・地元の高齢の方や地域商店の古い代表の方と、話す機会をつくる様になりました。そのご縁で「そのだプレミアム商品券」の発売につながりましたし、現市議会議員とインタビューするきっかけもいただきました

市のHPを見るなど情報収集を積極的に行うようになった

- ・尼崎市のHPを見る回数が増えました（自分から情報を取りに行くようになった）
- ・市の情報を積極的に見るようになった
- ・多くの人の交流、Facebook と LINE で情報を得る様になった

尼崎に関する情報を自ら発信するようになった

- ・Facebook の友達が増えて、尼崎関係の投稿が増えた

情報発信の手法を工夫するようになった

- ・情報発信の方法を意識するようになった（Facebook など）

その他

- ・今回の進行のあり方も大事だったと思いますが、尼崎市にとって魅力ある条例の内容の勉強ができればよかったと思う
- ・もっと条例に直接語りたかった
- ・プロセスに参加。面白いと思う
- ・持ち帰ってからの現実との落差

② “これからの尼崎”をどんな地域に、どんな社会にしていきたいか

人情味がある

- ・笑顔と人情の溢れる町
- ・人情味を生かす

人にも動物にも優しく接する

- ・市民に優しい地域
- ・人にも動物にも優しいまち

“おもしろい”がまち全体に溢れる

- ・おもしろい人がどんどん増えれば
- ・“おもしろい”をすぐに発信できる

人のつながりが広く、強い

- ・人と人とのつながりがもっと広い
- ・意志が伝わるつながり

市民同士の顔が見える

- ・地域にどんな人（特技を持った人）がいるかをみんなが知っているまち

市民と行政の距離が近い

- ・行政と市民の近い社会

様々な世代や立場の違う人同士が出会えるきっかけが多い

- ・立場の違う人と知り合う機会が多い社会（まち）
- ・世代、立場の違う人が出会う仕掛けがまちのあちこちにあったらいいな
- ・どの季節にもお祭りがある

互いに協力し、尊重する

- ・それぞれのことを尊重する
- ・お互い様の意識、シェアする意識

気軽に集い、困ったことがあれば互いに助け合える

- ・人の集まりやすい、助け合える地域にしたい

市民が互いに協力し、持っている力を出し合う

- ・今あるそれぞれの力を分け合う（つなげ合う）ような社会
- ・地域に愛着を持ち、つながりを持てる活動に協力的で活気がある社会になれば

地域の課題に対しても力を合わせて取り組める

- ・少子高齢化を市民同士で支えあえるまち

市の強みを活かしていく

- ・尼崎（アマ、あるいはガサキ）らしさの良い部分を失わずにより強くする
- ・あえて変わらなくても、今のいいところを活かしてつながりを考える（今あるものを発揮するイメージ）

多様性を強みとする

- ・多様性を強みとして生かす社会
ベッドタウンでもあり、産業都市でもあり、夜の町でもある
- ・様々な方が、様々な生活様式で生活できる尼崎になって欲しい
- ・多様な世代が入居できる住居の型別のマンションが供給されたら良い

ずっと住み続けたい

- ・ずっと住み続けたいと思える地域

住んでいることを誇ることができる

- ・住んでいる事を誇れるまちにしたい。環境、治安等の良い、災害に強いまち

各地域の個性が尊重されていて、他都市から見て憧れを抱く

- ・住んでみたい、行ってみたいと憧れるまち、尼崎にしたい
そのためには、地域の活性化が必要であり、各地域の個性を尊重して活かさないといけない。尼崎の活性化は北部から →歴史、文化、自然を活かすこと

自然が多くあり、環境が良い

- ・自然溢れる、環境の良い地域

大都市に近く、交通の便も良くて住みやすい

- ・大阪、神戸にともに近いので住みやすいと思えるまちに

他都市から見てのイメージが良い

- ・“尼”のイメージアップ。全国から見ての悪いイメージを変えたい
- ・アマ（↓）というイメージをアマ♪（↑）のイメージへ
（私自身も変わっていったので、それを広げる）
- ・アルカニック、ベイコム体育館の冠を「尼崎市」に戻す（マスコミなどへの露出が多く、全国レベルの大会やコンサートも多いのでイメージアップになる）
- ・魅力のある地域

市の“目玉”となるものがある

- ・尼崎もテーマパークを作ろう（忍たま乱太郎ランド）
- ・海外の忍者ファンへの観光地へ
- ・浦安市の様に市民の特権がある町に
- ・オリックスを尼崎の市民球団に
- ・外国人観光客を呼び込みたい
- ・観光資源を増やしたい

市民が市政に対して、また地域で意見を出しやすい

- ・市民が意見を言いやすい
- ・予算配分に市民も意見が言えるように

市民の意見がきちんと市政に反映される

- ・市政に意見が反映される

子どもの企画が活かされる

- ・小学生の企画等が街中にあったらいいな

市民が主体性を持つ

- ・市民が「お任せ」「無関心」から脱却し、自治の主人公となるような社会に。あらゆる機会を通じて意識改革を

市民が主権者として、その力をまちづくりにおいて発揮する

- ・市民自治が花開くまち

市民の市政への関心が高まり、参画が進んでいる

- ・市民の参画が進み、意識の共有ができるまち
- ・市民が市政への関心を高め、知識を共有する

子どもが安全・安心に暮らせる

- ・親の眼、小さなコミュニティの眼を行き渡らせ、安心できるまちに
- ・子どもが安心して住める社会（治安が良い）
- ・子育てに配慮したルール
- ・子どもを大切にする
- ・子どもを通してつながる社会
- ・子ども夢を持てる社会（学力アップとか）
- ・安心して通わせることができる公立中学校であってほしい

“学び”に力を入れている

- ・教育に力を入れて欲しい。学力アップで子育て世代が転入、人口増加
- ・人の力を生かした教育を広げる社会
- ・学べる場がたくさんある

税収が潤沢である

- ・将来的にはファミリーが住みやすい町になれば良いが、まずは通勤族の単身者が住みやすい町にして、少しでも税金をゲットする
- ・企業を誘致し、税収を上げる

地域へ予算が配分される

- ・地域自治＝小さな自治に予算をつけて、地域活性化のきっかけに

市民が応分の力を発揮できる

- ・市民が応分の力を発揮できる

その他

- ・議員が本当の意味で市民の代表になる
- ・住宅と工業の住み分け →共存
- ・第二の故郷にしたい
- ・この会で出会った方と「お祭り隊」として各地域のサポート
- ・人口が増えるように

③ “これからの尼崎”をつくっていくために市民の力で何ができるか

思いやりの気持ちを持つ

- ・思いやりを持って行動する

声かけなど身近なところからつながりをつくる

- ・声をかける
- ・人とつながる、つながりを広げる

一度できた人のつながりを途切れないように繋げていく

- ・この懇話会のつながりの継続

小さなことでも良いので、自分にできること、関心のあることから始めていく

- ・自分にできること（身近なこと）から始める
- ・身近なことからコツコツと
- ・今の自分に負担なくできることから始め出す（あいさつ、ゴミ拾いなど）
- ・一日一善。小さな親切運動
- ・地域に関心を持って、問題点を見つけ、解決策を考える

自分にできることを継続して行う

- ・自分の得意なこと、身の丈にあった活動を、張り切り過ぎずできることを続ける

能力や考えを表に出す、伝える

- ・自分が持っている能力や考えを表に出す、人に伝えるようにする
- ・「こうしていきたい」など、まず声をあげる
- ・関心を持ち、他の人に伝えることができる（頑張っている事を）

発言者の意図やその背景をできるだけ慮る

- ・なぜ、そのようなことを言うのかという背景を考える

できていることだけでなく「失敗」も共有する

- ・失敗談を出し合える（子育て等みんなが失敗しながらやっていることを共有する）

失敗してももう一度やり直せるよう寛容になる

- ・失敗してもやり直せるように

地域の自治を担うという意識を持つ

- ・尼崎に対して一人一人の今の自分にできることを、意識して実行していく
- ・各自、小さなコミュニティの一員であることをまず認識することが出発点
- ・問題意識を持つ
- ・意識改革。集結すれば大きな力となる

地域の活動へは積極的に参加する

- ・町会活動への参加

学ぶことができる場を探してみる

- ・学びの場を探す

イベントの運営を積極的に手伝う

- ・各種イベント運営の手伝い

地域の活動をサポートする役を担う

- ・「お祭りお助け隊」で地域のサポートスタッフを

地域における活動を積極的に行う

- ・地域活動を増やす

学びの機会を積極的につくっていく

- ・教育の場、バリエーションを増やしていく

様々な世代や立場が違う人のつながりが生まれるように、イベント等を開催し、働きかける

- ・若い人と年配者、子育て世代と働き盛り等色んな世代がつながっていく

地域の課題に対して、市民が互いに協力し、自発的に取り組む

- ・少子高齢化を市民参加で支えあう（見守り、安心）
- ・夜回りへの協力

積極的に市政や地域の情報を発信・共有する

- ・市の交流会に参加した1人1人が、FacebookやTwitterを通じて、この活動を発信する
- ・情報を共有する
- ・身近な事から口コミ、シェア
- ・ネットでシェア
- ・ネットで投稿する（情報発信）
- ・広く情報公開されることにより参加できる
- ・活動を募集できる掲示板など（ネット、リアルともに）
- ・社会人経験の学生への伝達
- ・尼崎で「おもしろいことをしたい」ということを伝える

他人の力も借りて情報発信の手法を工夫する

- ・自分の周りにある力を借りて、地域の情報を発信する

交流や発表の場をつくる

- ・世代を越えた交流の場をつくる
- ・小さな集まりを増やす
- ・持っているものをみんなが活かして発表できる場をつくる

各団体等とのつなぎ役になる

- ・行政や各団体等とのつなぎ役になる
- ・高齢福祉課とのパイプ役のお手伝い

市政に関する知識を深め、周りの人と共有し、協働のまちづくりを進める

- ・市民が市の講座に参加して、市政についての知識を深める。そして、その知識を近隣住民と共有することで、市民と行政が協働して町づくりを行える機会をつくっていく

地域活性化のために様々な主体が協働する

- ・自分の地域を活性化すること。できれば地域主体の協働のまちづくり
- ・自分の地域を良くすること。その役割を担う

組織に関わらず、小さなコミュニティ活動も評価する

- ・自治会任せではなく、「小さなコミュニティ」もまちづくりの主体に評価

その他

- ・自治基本条例の制定過程こそ大事。より多くの団体、個人に節々で参加してもらう
- ・総合大学がない
- ・条例により何でもできる
- ・地域活動に市民参画、協力するためには条例が必要
- ・とりわけ議会代表との討論の参加がカギ（新宿方式の採用を考える必要アリ）
- ・環境に配慮したまちに

④ 自治基本条例が制定された後、どのように関わっていくか。また、どのように活かしていきたいか

【関わり方】

条例の逐条解説の策定に関わる

- ・解説版を市民メンバーでつくる

条例の内容をしっかりと守っていく

- ・どのような条例になるかわからないので何とも言えないが、決められたことは守っていききたい

他人にわかりやすく説明できるように条例をきちんと解釈する

- ・全てに目を通して、自分なりにきちんと解釈したい
- ・日常生活で起こる事例と条例との関わりが説明できるようになりたい
- ・老人から子どもまで分かりやすい様に具体例をあげて説明できる様になりたい。例えば、既に条例がある市での具体例（良いことも悪いことも）が説明できる様に

条例周知のためのパンフレット等の作成に関わる

- ・市民にわかりやすいパンフレットの作成に関わる
- ・懇話会メンバーが引き続き参加し（学びたい）メンバーで手書き、紙芝居、本（冊子）を作って親しみやすくする

条例の周知活動に協力する

- ・条例のPRには協力していきたい
- ・積極的に周知活動に協力したい
- ・啓蒙活動に協力する
- ・私たちが関わったことを話題にして広めていきたい

条例を根拠として、地域で協働のまちづくりを進める

- ・地域で協働のまちづくりを進めたい

地域と行政の協働の仕組み(枠組)をつくることに関わる

- ・地域と行政との協働の枠組をつくることに関わる

【活かし方】

勉強会を開き、条例への理解を深めていく

- ・条例の勉強会を開く

研修の機会を多くつくる

- ・支所毎、各団体に研修してもらう

条例をつかって終わりにするのではなく、口コミをはじめ積極的にPRしていく

- ・口コミを最大の武器として広め、使っていきやすい条例を制定できている前提で使っていく（条例の制定過程にも市民の参画）
- ・条例のPR、みんなが知らなければ意味がない。「つくりました」で終わらない
→ 行政の本気度が問われる
- ・広める → シェア、口コミ（できる方法で）
- ・条件の周知を徹底

中学生でも理解できるような内容に条例を噛み砕いて周知する

- ・「条例」を噛み砕き、気になるタイトル（コピー）で周知する

マンガや冊子等でわかりやすく伝える

- ・条例をわかりやすくしたマンガなどをつくる
- ・イラスト、マンガを入れる。活字は硬い
- ・尼子騒兵衛さんに尼崎の条例について、マンガを描いてもらい、小・中・高校、図書館に置く
- ・懇話会メンバーが伝えたい仕掛けをつくる

地域と行政による協働の取り組みの中で条例を周知する

- ・地域の活動の中で行政との協働との取組みへの参加により、条例のPRができれば

情報の発信・共有を積極的に行う

- ・市民が市政に参画できるまちとして発信していく
- ・条例の情報公開が生命線

学びの教材として活かしていく

- ・授業で子どもたちに触れてもらいたい
- ・学校教育の場で広める

気軽に参加できる場をつくる

- ・“わざわざ感”のない場づくりをする（ハードルを下げる工夫をする）

市民の自主性によるネットワークをつくる

- ・市民参画、協働し、変革を実現する為には、行政との対等の立場での努力が必要となる。地域の諸活動を実りあるものにするためには、市民の自主性によるネットワークが大事

条例を根拠に地域活動をより進める

- ・地域活動を進めるために条例を利用

条例を根拠に地域での協働のまちづくりのための「仕組み」をつくる

- ・まず、地域主体の協働のまちづくり
→ そのための“仕組みづくり”（小学校区単位すすめる。例えば、〇〇地域まちづくり協議会）
→ 自分の地域は自分たちが変えることのできる仕組みをつくる
- ・地域での“協働のまちづくり”の「仕組みづくり」をしたい
- ・どう変わるのか。町会で活かせるように

条例がどのように活かされているかを発表するイベントを開催する

- ・活かされた事例の発表や活動団体のつながりの場として条例まつりを開催
- ・条例がどんな風に活用されているのかを、具体的にみられる条例まつりを開催
子どもから大人まで参加でき、条例ってこんなに身近なものなんだと親しみがわくものを
- ・条例により良くなった他の地域の事例集
- ・事例発表

条例の成果を伝え合う「条例サミット」を開催する

- ・全国自治基本条例サミット。条例自慢 → 条例の改正

つくって終わりではなく絶えず検証していく

- ・どのように活かされているかを検証する、市民チーム
- ・グループワークを続け、条例が活かされているかを検証する
- ・条例がどのように活かされているか検証する
- ・検証（あるとき、ないとき）
- ・自治基本条例のチェック機関への市民参加

柔軟性を持たせ、状況に合わせていく

- ・時代と共に現況に適合しているのか見守っていく。時代に柔軟に対応できるものであれば良い
- ・条例ができれば終わりではなく、改善・改良を心掛ける。柔軟な視点を持つ
- ・定める条文の中にすでに改変を盛り込んでおく

住民自治を進めるための条例をつくる

- ・議会改革や豊中市のような「地域自治推進条例」などの条例の具体化への市民参加
- ・「地域自治推進条例」の実施

その他

- ・制定する過程。より多くの団体や個人の参加を（特に議会）
- ・条例制定の実行は町内会がカギ
- ・条例が制定されて市民は何が変わるのか。行政のあり方は変わると思うが…